

平成 30 年 11 月 9 日

北九州八幡東病院での多剤耐性アシネトバクターの発生について

社会医療法人北九州病院
北九州八幡東病院
院長 坂田 久信

当院で、多剤耐性アシネトバクターが、複数の患者から検出されましたので、ご報告いたします。

1. 概要

平成 30 年 10 月 1 日（月）、当院入院中の 40 代男性（患者 A）より多剤耐性アシネトバクター(MDRA)が検出されたため、同日北九州市保健所へ届出を行ないました。（※1）

その後直ちに、北九州市保健所及び感染対策の専門家グループである KRICT（北九州地域感染制御チーム）に相談し、対策を重ねてきましたが、10月31日（水）までに累計6名の患者から MDRA が検出されました（内訳：発症者0名、保菌者6名）。

（※1）しかしながら、発熱などの感染症状がない保菌者と判断したため、その後、患者の発生届は取り下げました。

2. 原因及び経路 現在、調査中。

3. 当院の対応

北九州市保健所へ患者 A の届出を報告した直後より、北九州市保健所や KRICT（北九州地域感染制御チーム）と協議した上で、指導を受け、患者の隔離、病棟の閉鎖、環境整備、抗菌薬適正使用に係る委員会の設置、本件専従の看護師の配置、外部から専門家の招聘（感染管理看護師2名）、職員への指導教育等、院内の感染防止対策を徹底し感染の拡大防止に努めています。

4. 施設概要

法人名：社会医療法人 北九州病院
病院名：北九州八幡東病院
所在地：北九州市八幡東区西本町2丁目1-17
院長名：坂田 久信
病床数：480床

5. 参考資料

（別添）多剤耐性アシネトバクター感染症について

《多剤耐性アシネトバクター（MDRA）感染症について》

▶ アシネトバクターとは

アシネトバクターは土壌や河川水などの自然環境中に生息する菌で、砂遊びや水遊びで感染することはほとんどなく、健康に日常生活を送っている方には無害です。

また、診療所の外来などで感染する心配はほとんどありません。日常生活で多剤耐性アシネトバクターに感染する危険はさらに低いと考えられます。

▶ 多剤耐性アシネトバクター（MDRA）とは

多剤耐性アシネトバクター（MDRA：multi-drug resistant Acinetobacter）とは、治療に使用する抗菌薬がほとんど効かなくなっている菌のことで、カルバペネム系、フルオロキノロン系、アミノグリコシド系の抗菌薬全てに耐性（効果がない）を示す株を言います。アシネトバクターは、30種類以上の菌があることが知られていますが、ヒトの感染症の原因となる菌のほとんどがアシネトバクター・バウマウニです。

▶ 多剤耐性アシネトバクター感染症とは

多剤耐性アシネトバクターが、健康な人に感染症を起こすことはほとんどありません。

主に抵抗力が低下した患者や抗菌薬を長期使用している患者等に感染することがあり、肺炎などの呼吸器感染症、尿路感染症、手術部位や外傷部位の感染症、カテーテル関連血流感染症、敗血症、髄膜炎、皮膚、眼などの感染症を起こします。

▶ 感染症防止のポイント

アシネトバクターの感染経路は、主にヒトの手や手すり等を介する接触感染です。

健康な日常生活を送っている方に対しては、ほぼ無害なので、過度な心配はいりません。ただし、抗生物質等を服用している方の場合、医師の指示を正しく守る必要があります。

多剤耐性アシネトバクターは、人の皮膚や医療機器、てすり等の環境中で長期間生存するため、菌が付着した医療器具などを介して感染を起こす可能性があります。

感染を防ぐには、院内の環境を清潔に保ち、医療器具の消毒や手洗いを徹底することが重要です。

【参考：保菌者（発生届の不要な患者）と発症者（発生届が必要な患者）の違いについて】

保菌者とは、体の中に耐性菌を保有しているが、この菌が原因となる感染症の症状（発熱など）はなく、感染症法の医師の届出義務の対象ではありません。

発症者とは、喀痰や尿、便、膿などから検出された耐性菌が原因で、感染症症状（発熱・局所の疼痛など）が見られ、感染症法の医師の届出義務の対象となります。